

## R5-03 MS の Office ソフト

パソコンを使用するとき仕事上であれ家庭用でも欠かせない基本ソフトとして Microsoft の Office がありますが、価格は高いため PC の更新時に以前からのバージョンを継続使用するケースが多くみられます。近年 Office ソフトは購入した PC1台限りと言うことが多くなったため、時には旧バージョンを使いまわしているケースが見られ、トラブルを発生させることもあります。安全な基本ソフトについておさらいをしておきたいと考えます。

### 1 文書の基本

情報伝達の基本は紙の文書を読むことから始まりますが、その文書を作成するために現代では PC を利用するのが当たり前になっており、データ交換を初めとして共同編集の必要性から汎用性を求められることもあり、それを可能にしてきたのが PC のアプリケーションになります。

その多くはワープロ文書と計算式を埋め込んだ数表になり、その普及を支えてきたのが MS の Office soft とも言えましょう。しかし今日の文書は視覚に訴求する文書が多く pdf 文書も多用されております。

word excel はそれぞれ MS Office ソフトの固有名詞であります。一般的な単語として広く通用しており、また単体よりもこれを含めた数個のアプリをセットで導入するケースが多く、office の名前は業界に浸透して数社が同様の名称で発売しております。

文書作成ソフトとして代表的なものとして次のようなものが挙げられます。

- ① word : word processor の単純機能に加えて日本独特のはがき印刷や差し込み印刷などさらに画像やイラスト、また表計算文書を挿入する機能も持つのが特徴であり利用度が最も高いアプリとも言えます。
- ② excel : 無限ともいえる数のセルの個々に計算機能を持たせたりマクロ（複数の操作をまとめて必要に応じて呼び出せるようにする機能）や関数、グラフなど多彩な機能を持たせた表計算ソフトであり酵素な利用を可能としており、その習得にはかなり練度も要します。  
仕事上 PC を使用していた人はワープロ機能として利用することも多く見られます。
- ③ power point : プレゼンテーション資料作成ソフトで指定サイズの複数シートに文字のほか動くイラストや動画、音源も埋め込んだ説明資料が簡単にできる特徴を持つ。
- ④ publisher : 簡易 DTP (DeskTop Publishing) ソフトとしてチラシや印刷物の作成に適したソフトです。名刺やチラシ、グリーティングカード、パンフレットなど、デザイン重視の文書を作成することができます。特に数ページにわたる文書などの編集には最適です。
- ⑤ access : かなり専門的にはなりますが、データベースの作成・管理を行うためのソフトウェアで商品情報や顧客情報の管理システムを作成すれば顧客情報の住所を抽出したり、ダイレクトメールや資料の作成も予備知識なしに利用が可能となります。
- ⑥ PDF : Portable Document Format の略で、Adobe 社が開発した電子文書の規格で行政の文書や申請書にも多く採用されております。同じような企画のものが MS の XPS 文書として存在しますが、こちらは作成後に編集は出来ないという差があります。

PDF 文書の閲覧にはフリーで公開されている Adobe Acrobat Reader を使用しますが申請書への追記や編集には基本的には有料の Acrobat Pro が有効ですが、無料のソフトもいろいろありますので、必要がある方は各自でご検討ください。

## 2 MS Office の互換ソフト

### ① 代表的互換ソフト

世界を席卷しているともいえる Microsoft は OS のみならずアプリケーションでも次々に更新を続け PC の普及に貢献しております。そのため基本となる Word を初め Office ソフトも世界標準として認められているため PC を取り巻く IT 関連各社は MS Office に対する互換ソフトを追従せざるを得ない状況にあります。

いろいろな MS Office 互換ソフトを検証してきましたが、互換性に最も優れているのが Kingsoft の WPS Office かと思われます。Kingsoft は中国の会社ながら同時に日本法人を 2005 年に設立して発展してきた会社でイメージとは別に高性能なアプリ無料セキュリティソフト (KINGSOFT Internet Security) やオフィスソフト (WPS Office) を展開しており、日本法人独自で様々な企業との事業提携、協業を行い、スマートフォン分野にも進出しています。

今回のテーマである Office ソフトについて見ると Kingsoft Office から WPS Office に 2016 年に名称を変更してさらに普及を伸ばしております。その内容は下記の通りで

Writer (ライター) = Word と互換

Spreadsheet (スプレッドシート) = Excel と互換

Presentation (プレゼンテーション) = PowerPoint と互換

MS Office と親和性の高い互換性を保持していると感じられます。

購入に当たっては MS Office は近年 PC へのインストールから web 利用やサブスク利用に移行しており、WPS Office の従来通りのパッケージ提供とは異なります。

参考：価格比較 (Word Excel PowerPoint をセットしたもの)

Office Home & Business 2016 24,800 円 (2019 版は 43,980 円)  
(Office365 は 750 円/月)

Standard Edition - WPS Office 2 4,400 円 (MS 2016 互換のバージョン)

<注>：中国製のアプリは危険と言う声も一部にはありますが、いろいろ調べる中で下記のような記述もあることを知っておいてください。

WPS Office は Microsoft Office とインターフェイスを似せて作成されているため、著作権・知的所有権等が気になってくる部分でもありますが、キングソフトでは、マイクロソフトの Windows 8/7/Vista の公式認定ロゴ (Windows 8 Compatible/Compatible with Windows 7/Windows Vista Capable) を取得していて、実質的に公認されている形となっているようです。もちろん Microsoft 側からの訴訟などありません。個人的なことを少し紹介しておくと、私は「Microsoft Office」「WPS Office」を二刀流で使用しています。「WPS Office (KINGSOFT Office)」に限って言うと 10 年以上愛用していますが、セキュリティ上の不安を感じたことは今のところありません。

(<https://ryu-ku.net/26/8903#keni-toc0> から転載しております)

## ② 無料の互換ソフト

PC を多用する人は 2 台目、3 台目を所有することも多いですが、そのたびに Office ソフトを購入することは負担が大きいため無料版の互換ソフトを検討することも多いと思います。そのような時どんなデメリットや気を付けなければならない事項を chat GPT に聞いてみると以下の返事がありました。ご参考になれば幸いです。

MS Office の Word と Excel の無料版（フリーミアム版や試用版など）を利用する場合には、以下のようなデメリットが考えられます：

- ① 機能制限: 無料版は通常、有料版に比べて機能が制限されています。高度な機能や特定の操作が制約される場合があります。例えば、高度なデータ分析機能やマクロの作成が制限されていることがあります。
- ② オンライン機能: 無料版ではオンラインサービスとの連携やクラウド保存機能が制限されることがあります。有料版では OneDrive などのクラウドストレージを使ってドキュメントを共有・保存することができますが、無料版では利用できないか容量制限がある場合があります。
- ③ 広告表示: 無料版は広告表示が含まれる場合があります。広告が表示されることで、作業効率が低下したり、プライバシーが侵害される可能性があります。
- ④ 制限付き利用期間: 無料版は試用版の場合が多いため、期間が制限されることがあります。利用期間が終了すると、有料版に切り替える必要が出てくるかもしれません。
- ⑤ サポートの制約: 無料版の場合、有料版のような優先的なサポートが受けられない場合があります。問題が発生した際に解決まで時間がかかるかもしれません。
- ⑥ インストールの制限: 企業や組織で利用する場合、無料版のインストールが制限されることがあります。ライセンス契約に違反することになるかもしれません。
- ⑦ セキュリティリスク: 無料版は有料版よりもセキュリティ面での対応が弱い場合があります。アップデートが滞ったり、セキュリティパッチが提供されないことがあります。

以上のデメリットに対して、有料版ではこれらの制約がなく、フル機能を利用できるだけでなく、セキュリティやサポート面でも安心して利用できることが挙げられます。ただし、個人のニーズや使用目的によっては無料版で十分な場合もあります。

推奨される互換ソフトの代表的なものを挙げると下記のようなものが挙げられます。

Apache OpenOffice    <https://www.openoffice.org/ja/>  
 Libre Office         <https://ja.libreoffice.org/>  
 Google Drive         [https://www.google.com/intl/ja\\_ALL/drive/](https://www.google.com/intl/ja_ALL/drive/)

どれにしても同じような特徴を持つので再び chat GPT に優劣を利くと次のような回答がありました。結局自分で試した結果で自己判断する以外に優劣を決めようがないということです。

MS 互換ソフトである Apache OpenOffice、Libre Office、および Google Drive の主な優劣を以下に挙げます。ただし、優劣は使用目的や個々の好みによって異なる場合があります。

総合的に見て、Apache OpenOffice と Libre Office はオフラインで動作し、豊富な機能と MS Office との高い互換性を持っていますが、開発とデザインに関して一部のユーザーには古めかしいと感じられることがあります。一方、Google Drive はクラウドベースで、リアルタイムの共同編集が可能ですが、オフライン作業が制限され、セキュリティ上の懸念もあります。最終的な選択は、個々のニーズと好みによって異なるでしょう。

## ① Apache OpenOffice の特徴：

オープンソース：無料で利用できるオープンソースのオフィススイートです。

MS Office との互換性：MS Office との高いファイル互換性があります。

フル機能：豊富な機能を備えており、テキスト文書、スプレッドシート、プレゼンテーションなどを作成できます。

Apache OpenOffice の欠点：

開発が停滞気味：開発者の数が限られているため、新しい機能の追加やセキュリティの改善が遅れることがあります。

ユーザーインターフェース：MS Office と比べると、ユーザーインターフェースが少し古くなっていると感じるかもしれません。

## ② Libre Office の特徴：

オープンソース：Apache OpenOffice 同様、オープンソースのオフィススイートであり、無料で使用できます。

継続的な開発：Libre Office はアクティブな開発コミュニティがあり、定期的には新機能やセキュリティアップデートがリリースされます。

高度な互換性：MS Office との高い互換性を持ちながら、より新しいファイル形式をサポートしています。

Libre Office の欠点：

インターフェース：Libre Office のユーザーインターフェースも MS Office に比べると少し古く感じる場合がありますが、Apache OpenOffice より洗練されています。

## ③ Google Drive の特徴：

クラウドベース：オンライン上でファイルを作成、保存、共有できます。

複数の端末での同期：複数のデバイス間でファイルが同期されるため、どこからでもアクセスできます。

リアルタイム共同編集：他のユーザーと同時にファイルを編集でき、変更がリアルタイムで反映されます。

Google Drive の欠点：

インターネット接続が必要：オフラインでの作業が制限されるため、常にインターネット接続が必要です。

セキュリティ：クラウドベースのサービスにはセキュリティ上の懸念があります。

いかがですか。すべて投げやりにしてしまったような感もありますが、私は基本的に互換性 MS ソフトは過去試験的に使用しただけで諦めた経験から互換性ソフトをうんぬんする知識を持たず MS に頼っているためこのような展開になりました。

皆さんもこうしたとき chat GPT の力を借りて納得することも「あり」とはお考えになりませんか？